



NEWS LETTER かながわ

2009 年度第 2 号(通巻第 6 号)

2010 年 2 月 15 日 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻 頭 言

神奈川支部 副支部長 秦野 悦子

臨床発達心理士という資格ができ、その職能集団としてのあり方を自身に問い続けながらの何年間かが過ぎました。この資格が誕生した年には、資格取得された会員から、また市政の地域行政の担当者から「臨床発達心理士」について、詳細な情報が欲しいとの問い合わせが頻繁にありました。8回目の資格認定が終わりましたこの頃では、地域の講演会や、発達支援関連図書の著者に「臨床発達心理士」という肩書を掲げていらっしゃる方々も増えてきて、会員の皆様が活躍されていることを実感します。

また 2009 年には、臨床発達心理士スーパーバイザー資格認定も始まり、臨床発達心理士という職能集団内での専門家の相互人材育成も進めていく基盤ができつつあります。この数年間において、この資格を持つ人が増えることにより、生涯発達をみすえ、発達の観点を持った支援の幅が広がっていくことだけでなく、これからはスーパーバイザー資格の位置づけが確かなものになり、専門性を深めていくプロセスが組織化していくことが期待されます。

この数年間の教育・保育現場での支援の流れをふりかえると、不登校や不対応の対応にあたって、その中に障害をベースとした方々が含まれることも多く、発達・教育を中心にした支援を必要とする人たちが多くいることをあらためて感じます。発達の障害全般だけでなく、乳幼児から成人期までの一生涯に渡る支援について、発達という絶えず変わりゆくことへの視点が必要とされることが示唆されます。

特別支援教育は、各学校園でも幼児児童生徒の一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援をさらに充実していくことが求められています。行政的には就学前への対応課題へと移行しつつあります。就学前の特別支援教育は、これまでの小学校のシステムをそのまま持ってくるのではなく、幼児期の保育や教育が積み重ねてきた実績の上で、子どもの育ちを保障していくような専門家の力量形成、研修システムづくりが、この職能団体で進めたいと思います。

神奈川支部研修会報告

テーマ：青年期の発達障害児者の抱える心理教育的課題

日時：2009年12月19日（土）13：00～16：30

場所：ウィリング横浜

講師：内野 智之 氏（神奈川県立みどり養護学校教諭）

演題 「高校等在籍者の抱える困難と課題」

日戸 由刈 氏（横浜市総合リハビリテーションセンター臨床心理士）

演題 「アスペルガー症候群の人たちの就労困難に対する早期介入」

今年度の年間研修テーマは「生涯発達支援 発達障害のある本人への継続的な支援」です。

第2回研修会では、「青年期の発達障害児者の抱える心理教育的課題」という大きなテーマのもと3部体制で実施しました。第1部の内野先生には「高校等在籍者の抱える困難と課題」というテーマで「高等学校における取り組み」を中心に、第2部の日戸先生には「アスペルガー症候群の人たちの就労困難に対する早期介入」というテーマで「高校生と大学生のための就労準備」について講演していただきました。第3部では各講演についてフロアの方からいただいた質問内容をもとに、講師の方から詳しく話をしていただきました。

内野先生には高等学校における特別支援教育の現状と発達障害児者の抱える心理教育的な課題について、具体的には文部科学省の高等学校における特別支援教育の施策、神奈川県での高等学校における取り組み、内野先生が研究された「軽度の発達障害を有する本人調査」について約1時間15分講演していただきました。高等学校が義務教育ではないが約97%の生徒が進学している現状の中で、2007年学校教育法が改正され「高等学校でも障害のある生徒への教育を行うこと」が明記されました。しかし、高等学校における特別支援学級や通級による指導が規定されていないので、現状では教育課程の弾力的な運用で対応しているとの話を伺いました。

日戸先生には横浜市リハビリテーションセンターで実施したアスペルガー症候群の高校生と大学生に対する就労支援プログラムについて、就労が定着するまでに生じる困難、就労が定着した後に生じる困難、どんなところで高校生や大学生がつまずき、就労するためにどんな準備が必要なのか具体的に話していただきました。

その後、内野先生と日戸先生には、フロアの方からの質問を中心に丁寧に話をしていただきました。内野先生には特別支援学校高等部知的障害部門の授業や神奈川県における分教室での取り組みや文部科学省で実施している「高等学校における発達障害支援モデル事業指定校の取り組み概要」について詳しく話していただきました。日戸先生には、アスペルガー症候群の高校生と大学生を就労準備で比較した場合など、詳しく話をしていただきました。

神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

加 64 人中 40 通を回収させて頂きました。

1. 今回の研修会の内容について

1)自分の知識の広がりにつながるものでしたか。(5 択)

【講演 1 (内野先生)】

「とてもそう思う」が 20 人、「そう思う」が 18 人でした。(無記入 2)

【講演 2 (日戸先生)】

「とてもそう思う」が 24 人、「そう思う」が 15 人でした。(無記入 1)

2)臨床現場に役立つものでしたか。(5 択)

【講演 1 (内野先生)】

「とてもそう思う」が 20 人、「そう思う」が 15 人、「どちらでもない」が 5 人でした。

【講演 2 (日戸先生)】

「とてもそう思う」が 23 人、「そう思う」が 13 人、「どちらでもない」が 2 人でした。(無記入 2)

3)内容へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記述)

- ・高等学校における特別支援教育に関する文科省の動向がよく整理されていて勉強になった。
- ・実態調査が貴重な報告だった。
- ・アスペルガーの心理特性に基づいた困難のメカニズム検証が臨床実践とリンクされており、勉強になった。
- ・教育側、医療側双方からの情報が得られ、理解が深めやすい構成だった。
- ・幼児期に支援を開始している意味を再確認した。
- ・障害の告知についてのヒントを得られた。
- ・歪みや偏りを SST によって変えられることが分かってよかった。 など

2. 今後の神奈川県支部で希望する研修会・研究会について (自由記述)

- ・保護者、家庭とのかかわり、支援について
- ・教育、福祉、医療の連携の実際 (児相の関る取り組み)
- ・発達心理の基礎研究や対人関係性について
- ・通常級における特別支援教育について
- ・反社会的行動をとる子どもへの支援について
- ・児童虐待が疑われる児童の学校内での対応について
- ・青年期の特に軽度発達障害への支援の現状、福祉以外の現場での実践
- ・精神障害や DV について、またそのためのクリニックや児相、相談機関との連携について
- ・内野先生の分教室での取り組みについて (2)
- ・障害があるお子さんの兄弟児フォローについて
- ・乳幼児健診の相談のあり方、ポイント
- ・知能検査の解釈について
- ・精神疾患を持つ方の面接のコツなど

3. その他研修会について気づいた点 (自由記述)

- ・講義形式だけでなく、多様な形式で。
- ・教育現場と福祉現場からの発表をうまくリンクして討論が出来たらよいのではないかな。
- ・年 2 回の研修会では少ないのではないかな。年 3～4 回程度は必要だと思う。
- ・会場が便利、快適だった (2)。など